



集合住宅用セキュリティシステム
デジタルペア線式マンションシステム(アギーオ)用

取付工事説明書

IP変換器 (VG-C104D) IP3LCユニット (VG-C974D)

工事をなさる方へのお願い

- 中央制御装置とIP変換器間を誤配線するとIP変換器が瞬時に破壊されます。十分に配線を確認した後、制御装置の電源とIP変換器の電源を入れてください。
- 配線工事完了後、誤配線、ショート等がないことを確認してから電源を入れてください。
- IP変換器のIP3LCユニットの取付け/取り外しは、必ずAC電源のスイッチを「OFF」にして約10秒以上経過後に行なってください。
- IP変換器内部の電源ユニットに触れると感電の恐れがあります。また、電源ユニットは通電中非常に高温になりますので「OFF」にした直後も十分気をつけてください。
- IP変換器、及び、IP3LCユニット内の電子部品（IC、マイコン等）や導電部には直接手を触れないでください。点検・サービス時は、静電破壊防止のため静電バンドを手首に装着し、リード線をIP変換器のアース端子に接続してください。（静電破壊により故障や故障しかりといった現象が発生します。）
- IP変換器の周囲30cm四方には、物を置かないでください。周囲30cm以内に物を置くと放熱効果が妨げられ、火災や故障の原因になります。
- IP変換器の平置は絶対にしないでください。IP変換器は壁掛け（2方向指定）を前提として設計されています。著しく寿命が低下し、故障の原因となります。
- 中央制御装置に添付の取付工事説明書を併用願います。

目 次

1	工事作業安全上のご注意	3
2	システム系統図	8
3	配線系統図	10
4	取付方法	11
5	設定方法	19
6	取付工事後の点検方法	23

■付属品について

IP変換器 (VG-C104D)

雑音防止コア	1
ACコード	1
ヒューズ (2A)	1
ヒューズ (3.15A)	1
木ネジ	4
小ネジ	4
取付工事説明書	1
保証書	1

IP3LCユニット (VG-C974D)

雑音防止コア	1
--------	---

著作権について



- Windowsは、米国マイクロソフト社の商標です。
- Netscape Navigatorは、Netscape社の商標です。

1 工事作業安全上のご注意




必ずお守りください

工事作業時の事故防止と、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った工事作業をした時に生じる危害や、損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵で区分し説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

■AC100V電源接続について

電源はAC100Vを使用する。



指定以外の電圧や電源で使用すると、火災や感電の原因となります。

- ・電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。販売店に相談してください。

指定以外の端子に電源 (AC100V) を接続しない。



ショートして火災や感電の原因となります。

禁止

電源電圧 (AC100V) 直結端子の所に指定以外の電圧 (例AC200V) を接続しない。



指定以外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因となります。

禁止

- ・電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。販売店に相談してください。

たこ足配線はしない。



過熱してショートや火災の原因となります。

禁止

IP変換器内部の電源ユニットに触れると感電の恐れがあります。



また、電源ユニットは、通電中非常に高熱になりますので、電源を「OFF」にした直後も注意してください。

警告

■配線工事について

電源コードの上に重い物を乗せたり傷をつけたり、無理に曲げたり引っ張ったりしない。



禁止

ショートして火災や感電の原因となります。

- ・コードが損傷した場合は、ただちに電源プラグを抜いて、販売店に相談してください。

電源（AC100V）を入れたまま配線工事をしない。



禁止

感電や故障の原因となります。

- ・電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。販売店に相談してください。

床上配線でふまれる恐れのある場合は、ワイヤープロテクターで保護する。



ショートし火災、故障の原因となります。

屋外配線は、雷サージ保護の保護器を使用する。



雷によって周囲破損や火災の原因となります。

アースを取付ける。D種接地（100Ω以下）
（アース端子設置規定機器）



アース線接続

故障や漏電のときに感電の原因となります。

- ・ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線に接続しないでください。（法令で禁止されています）
- ・取付けは販売店にご相談ください。

雷のときは架空配線工事をしない。



禁止

雷によって感電や火災の原因となります。

付属品または専用品以外を接続しない。



禁止

指定品以外の機器を使用すると火災や感電の原因となります。

誤配線やショート等がないことを確認してからAC100Vを接続してください。



感電や火災の原因となります。

警告

■配線工事について

チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100Vが通電されていないことを確認する。



そのまま使用すると、感電、破損の原因となります。

■機器の設置について

据置設置時、指定の固定方法で据置する。



ゆるみやはずれで転倒し、事故の原因となることがあります。

壁取付時、質量に耐える指定の取付方法で取付ける。



ゆるみやはずれで落下し、事故の原因となることがあります。

高所設備（2m以上）の取付時、必ず安全装置を使用する。



落下によりけがの原因となります。

放熱のための通風孔はふさがない。



内部に熱がこもり、火災の原因となります。

禁止

- ・周囲30cm以内に物を置かないでください。

■ヒューズその他について

指定以外のヒューズは使用しない。



指定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

禁止

- ・電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。販売店に相談してください。

接続を行うとき以外は、本体をあけたり、分解・改造しない。



感電や火災の原因となります。

分解禁止

- ・内部の点検や修理などは、販売店に相談してください。

⚠ 注意

■ 機器の設置場所について

浴室などの湿気が多い場所やホコリの多いところに置かない。



火災や感電の原因となります。

禁止

直射日光、暖房設備、ボイラーなどの特に温度の上がる場所に置かない。



機器表面が変形・劣化するほか、故障の原因となります。
(室内温度:0℃～40℃以内
(非結露)にて使用してください。)

禁止

水や薬品のかかる場所に置かない。



感電や火災の原因となります。

禁止

振動・衝撃のある場所に置かない。



破損や故障の原因となります。

禁止

不安定な場所に置かない。



バランスがくずれて倒れ、事故の原因となります。

禁止

硫化水素、リン、アンモニア、硫酸、炭素、酸、塵埃、有害ガス等の発生する場所に置かない。



機構および接点部に悪影響を与えるほか故障の原因となります。

禁止

磁石などの磁気を帯びたものの近くに置かない。



雑音の発生や故障の原因となります。また、映像のある機器では、画像のみだれなどの原因となります。

禁止

高周波マシン、電気溶接機など電磁波発生源のある場所に置かない。



電磁波の輻射ノイズにより、故障や誤動作の原因となります。

禁止

⚠ 注意

■ 機器の設置場所について

ラジオ、ラジオ放送（短波放送含む）アンテナ、テレビ、コンピュータ、OA機器、電子レンジ、エアコンなどから2m以上離す。
（CB等の電波影響がないことを確認してください）



機器からの輻射ノイズにより悪影響をあたえる原因となります。

セキュリティ機器の検知器は、もれたガスが外気で薄められる場所に置かない。



正常に発報できない原因となります。

禁止

・給気口などの近くに設置しないでください。

■ 配線工事について

土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない。



絶縁劣化により、感電や故障の原因となります。

禁止

土中埋設配線する場合は、保護管を使用する。



絶縁劣化により、感電や故障の原因となります。

■ セキュリティ機器について

セキュリティ機器の検知器は、燃焼器の真上、または、シンナー・殺虫剤・排気などが直接あたる場所に置かない。



誤報や故障の原因となります。

禁止

セキュリティ機器の検知器は、もれたガスが流通しにくい場所に置かない。



正常に発報できない原因となります。

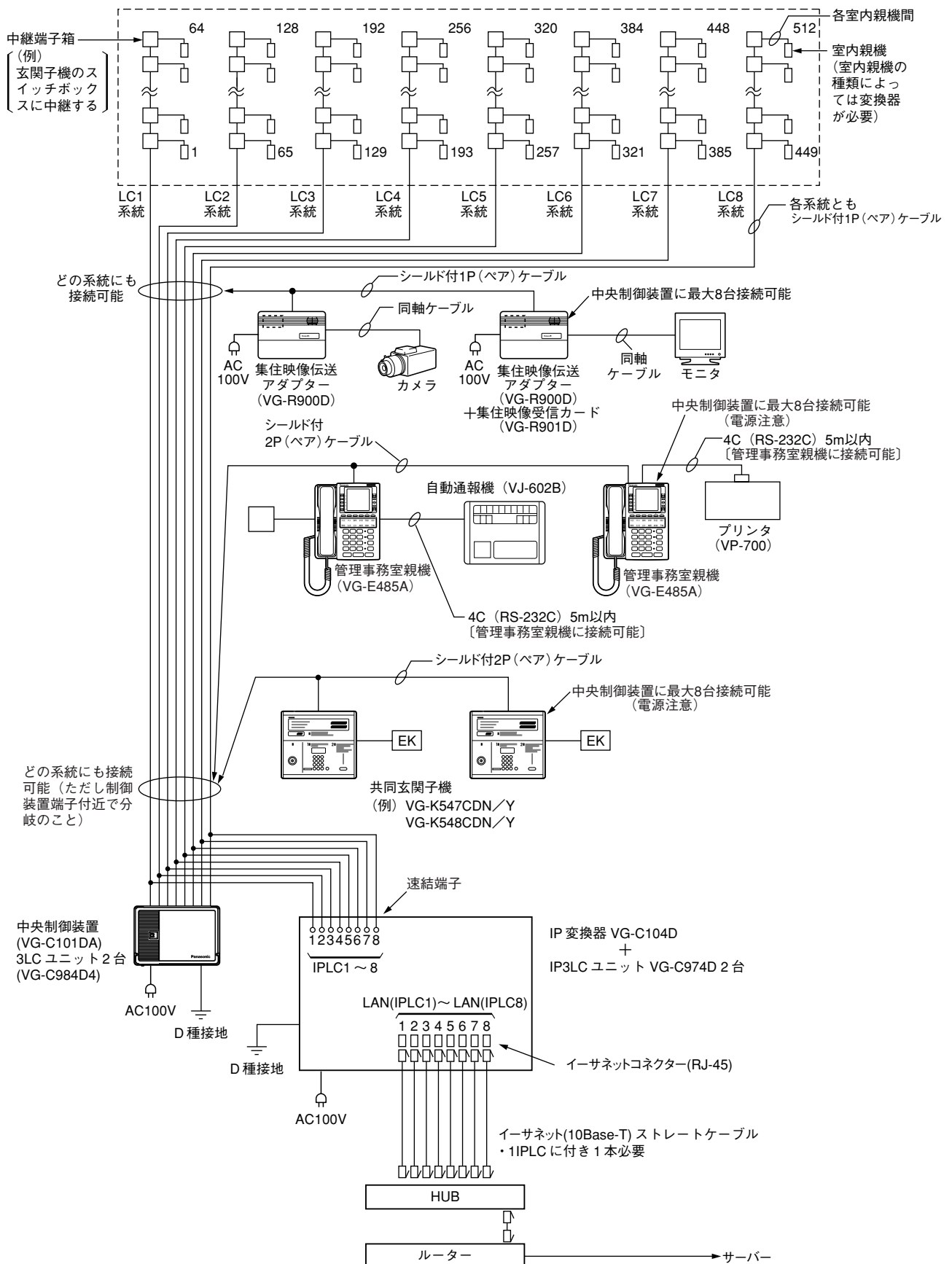
禁止

・厨房設備や家具などの影にならない場所に設置してください。

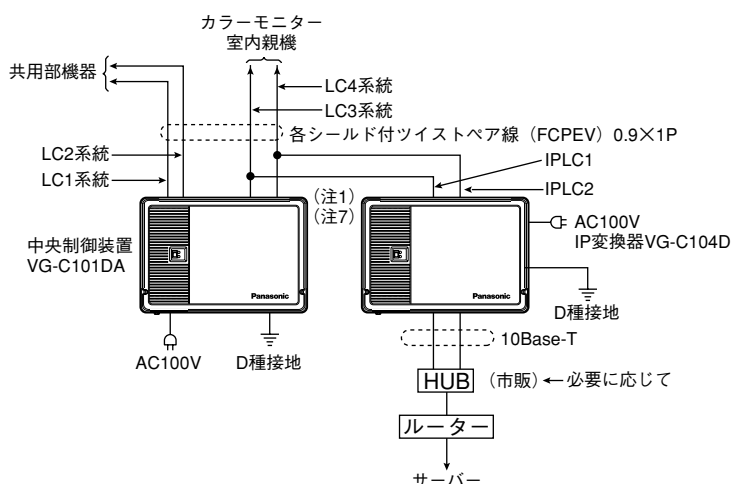
2 システム系統図

(注) 1つの系統に接続可能な台数は、室内親機と共用部機器の合計で64台（配線条件により減ります）
以下です。（共用部機器は全ての系統に接続可能です）

(注) 全室内親機に電源直結配線によるAC100Vを供給すること。



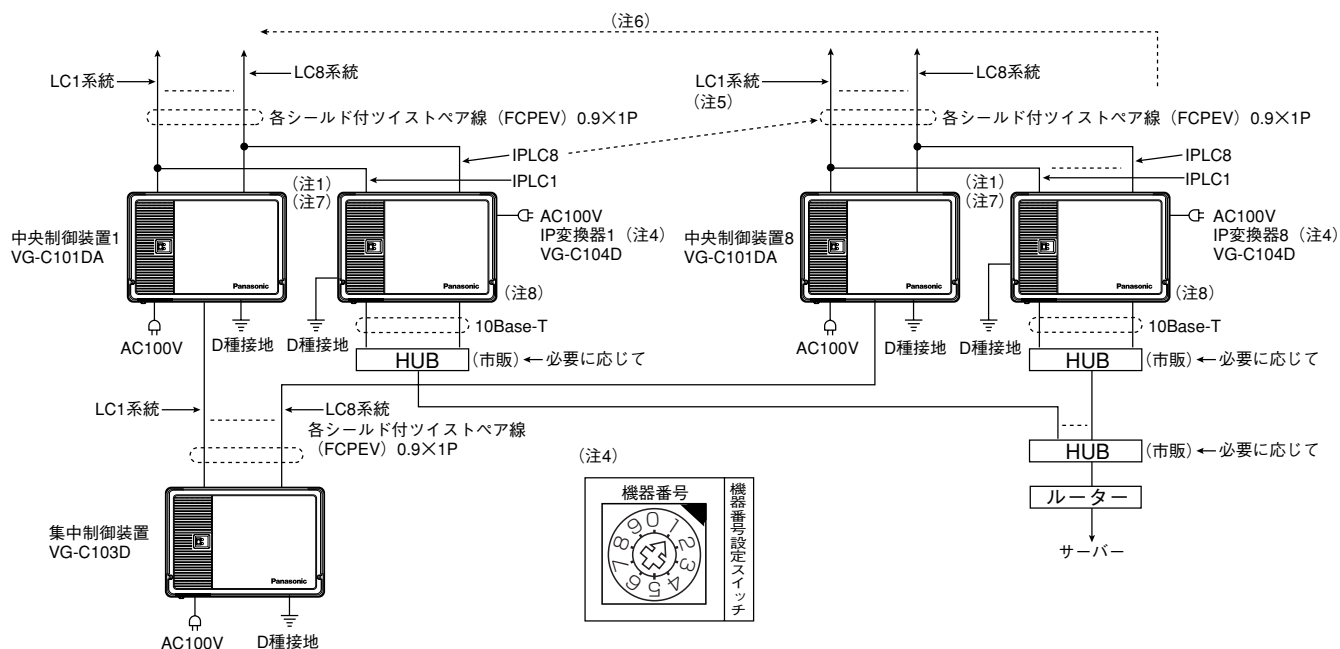
(注1) カラーモニター室内親機を接続している系統にIPLCを1つ接続してください。共用部機器のみ接続された系統にIPLCを接続する必要はありません。



(注2) 1つの系統にIPLCを2つ以上接続しないでください。

(注3) 1つの系統の端末接続台数の計算の際は、IPLC1つで端末1台として加算してください。

(注4) 下図の場合、IP変換器の機器番号SWを重複させないでください。(サーバー接続の際に誤作動します。またIPLCの初期IPアドレスが重複してしまいます。) 機器番号は出荷時“1”になっています。



(注5) 1つのIP変換器に異なる中央制御装置を接続しないでください。

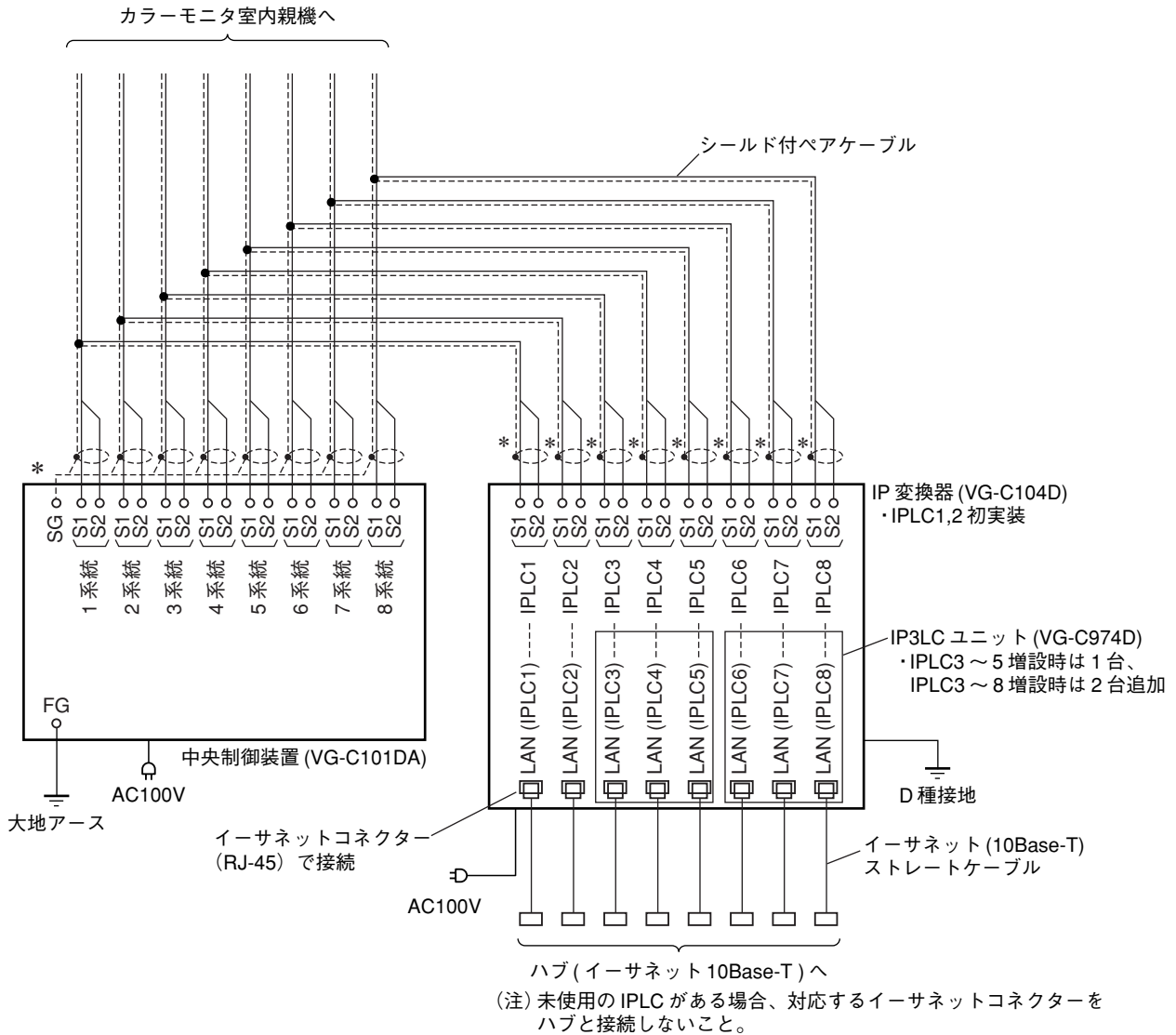
(注6) 1つの中央制御装置に異なるIP変換器を接続しないでください。

(注7) 中央制御装置との配線条件については中央制御装置の取付工事説明書を参照してください。

(注8) IPLCが3つ以上必要な場合は別売IP3LCユニット (VG-C974D) を実装する必要があります。IP3LCユニットはIP変換器に最大2台実装可能で最大8IPLCまで可能です。

3 配線系統図

- お願い
- ・機器間でシールド付ペアケーブル使用箇所については下図を参照し必ず対（ペア）で正しく配線すること。
(正しく配線しないと誤動作する場合があります。)



- *各シールド線の編組またはドレインワイヤーのアースは、中央制御装置側で該当する **SG** (シグナルグランド) 端子に接続する。
反対側 (IP変換器に接続する方) は、ワンポイントアース (一点アース) にするため、編組またはドレインワイヤーは根元で切断する。但し線ショート防止のため絶縁テープによるテーピングをすること。

4 取付方法

1. IP変換器 VG-C104D

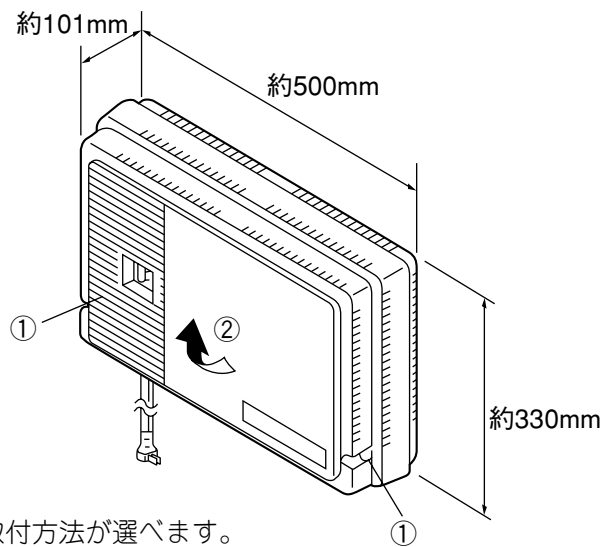
1. IP変換器の取付方法

- お願い
- ・IP変換器の周囲30cm四方には、物を置かないでください。周囲30cm以内に物を置くと、放熱効果が妨げられ故障の原因になります。
 - ・指定方向以外に取付けをした場合は著しく電源寿命が低下する恐れがあります。
 - ・平置きは絶対に行わないでください。壁掛けまたは床置き金具を使用してください。
(床置き金具:VB-D241製品名“床置きアダプター”)

(1) 上カバーの開け方

手順

- ①ねじ2本をはずす。(抜け防止ねじを使用しています)
- ②上カバーを上を持ち上げてはずす。

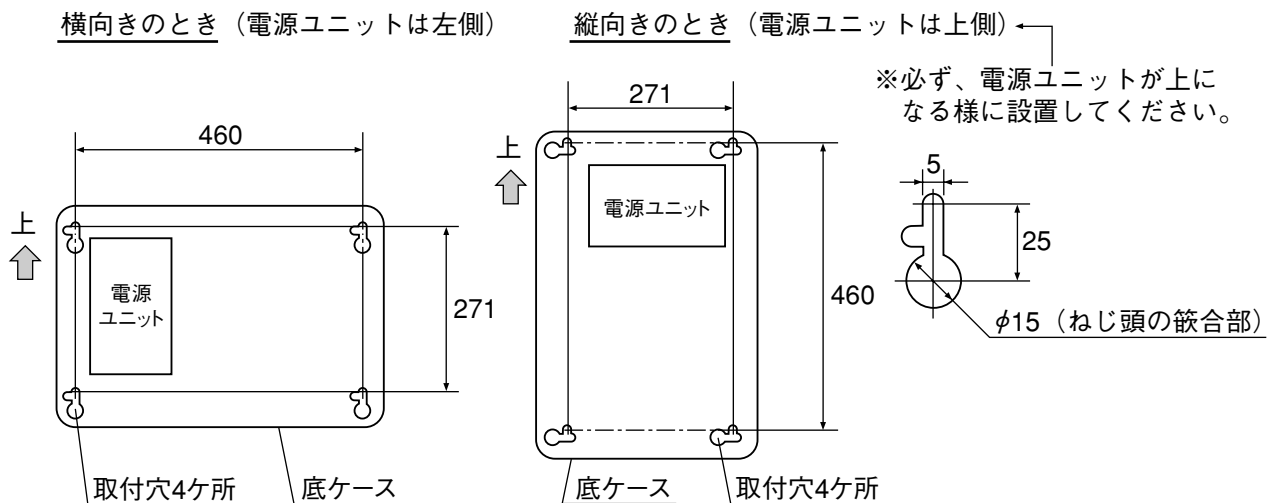


(2) 壁取付方法

壁取付方法には、横向きと縦向きの取付方法が選べます。

- ・壁取付用ねじの取付寸法 (単位mm)

お知らせ IP変換器包装箱に同梱の寸法型紙をご活用ください。
(型紙の収縮があるので、あらかじめ寸法を確認してください)

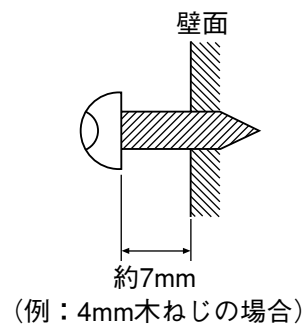


・取付ねじの固定寸法

取付ねじを壁面より約7mm（下ケースを嵌合のため）浮かして止める。

※質量に耐える取付けをしてください。

（内蔵オプションを含む質量:3.3kg）

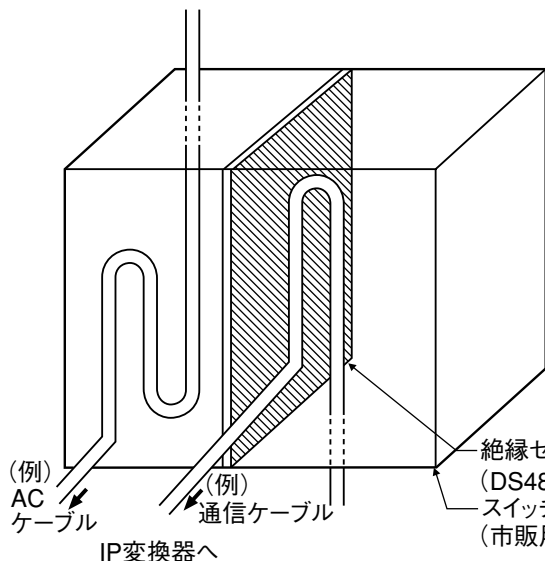
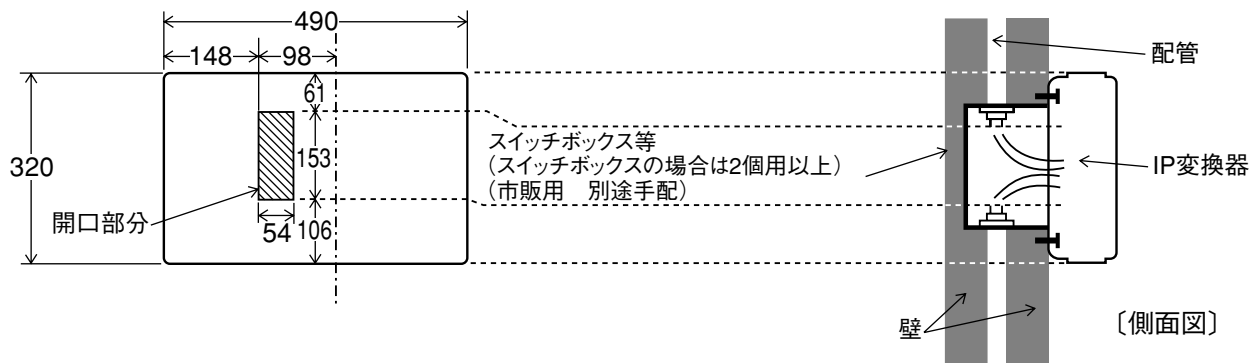


手順

- ①上カバーをはずす（上カバーの開け方を参照）。
- ②壁面に型紙を使用して指定の寸法で4ヶ所にねじ（4mm木ねじまたはボルトアンカー等）を取付ける。
- ③底ケースの取付穴（4ヶ所）にねじを差し込んだ後、底カバーを下へ引き下げる。
- ④4本の取付ねじを完全に締め付ける。



(3) 壁取付の配線引廻し方法



手順

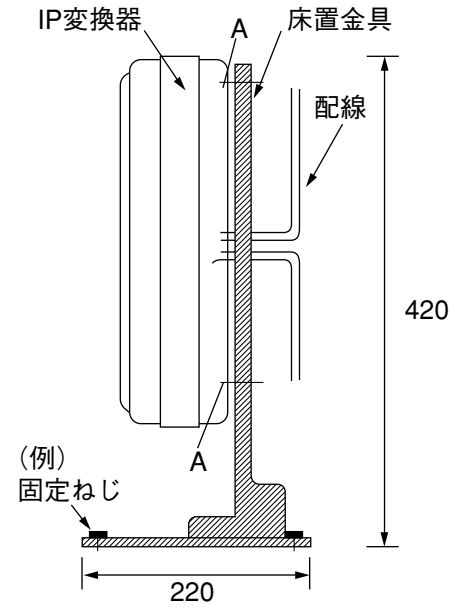
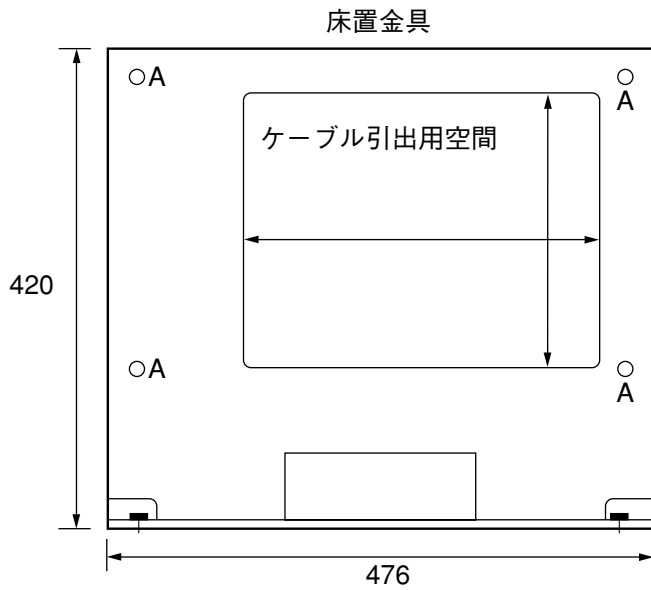
- ①IP変換器の開口部分より線材を入線し、2個用以上スイッチボックス内で線材の余長処理を行ってください。
- ②電源直結形にする場合は、2個用以上スイッチボックス内で強電側と弱電側を隔離するために、絶縁セパレータ（DS48600）を使用してください。

(例)
 絶縁セパレータ
 (DS48600 松下電工(株)製：2個用スイッチボックスの場合)
 スwitchボックス等
 (市販用 別途手配)

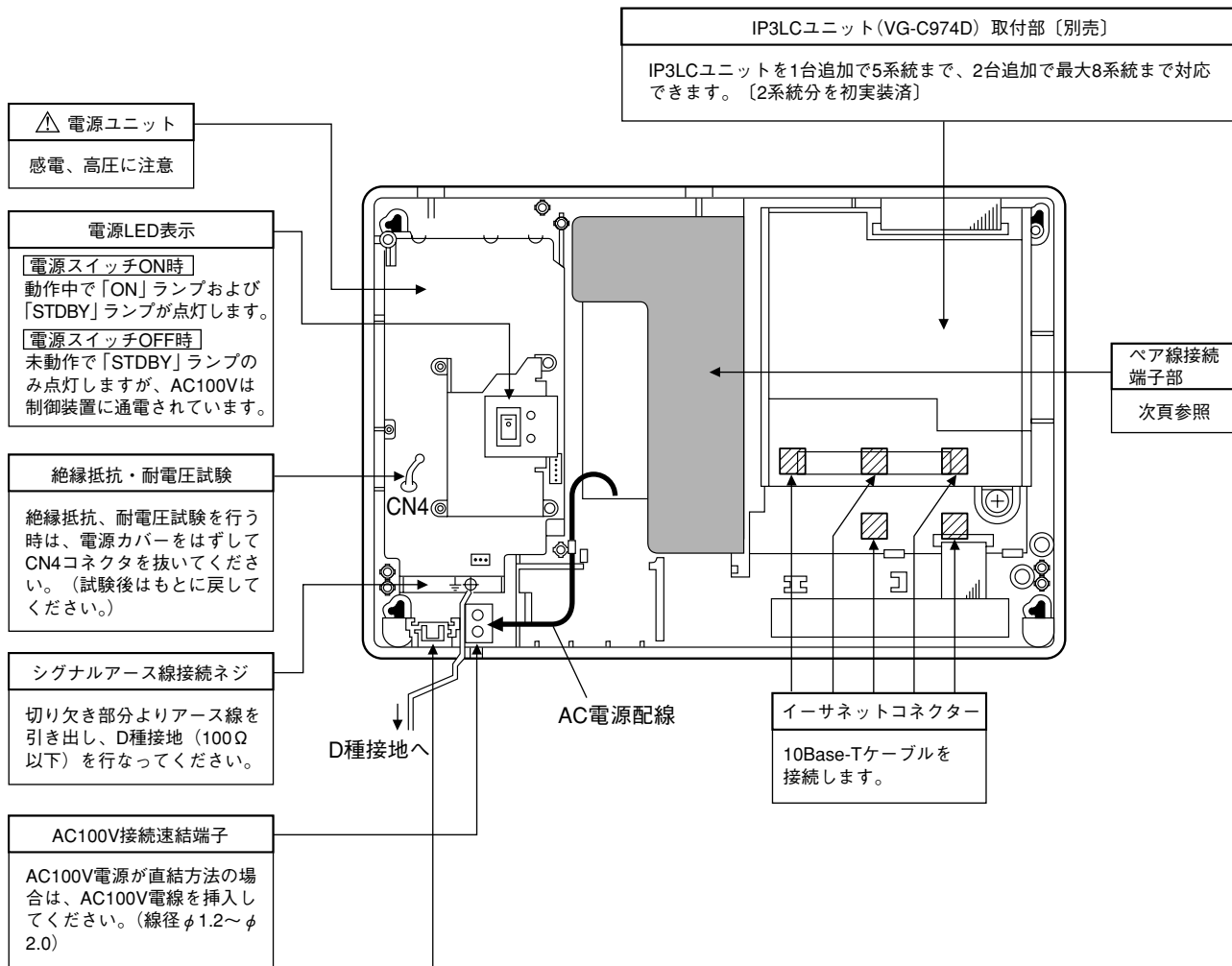
(4) 床置き取付方法

手順

- ①上カバーをはずす。
- ②別売の「床置金具 (VB-D241)」の4ヶ所 (A) にねじを取付ける。
- ③底ケースの取付穴にねじを差し込んだ後、底カバーを下へ引き下げる。
- ④4本の取付ねじを完全に締め付ける。



2. IP変換器内各部の配置と電源接続について

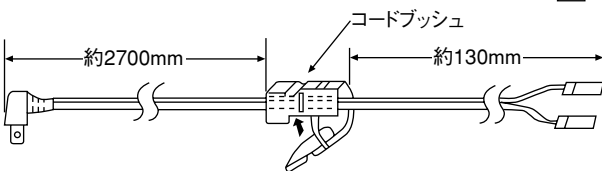


付属のACプラグ付コード(約2.7m)でAC配線をする場合

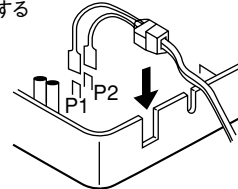
1.すでにP1・P2端子に接続されている線をはずす

2.本体ケースのコードブッシュをはずす

3.付属のACコードにコードブッシュを取付ける



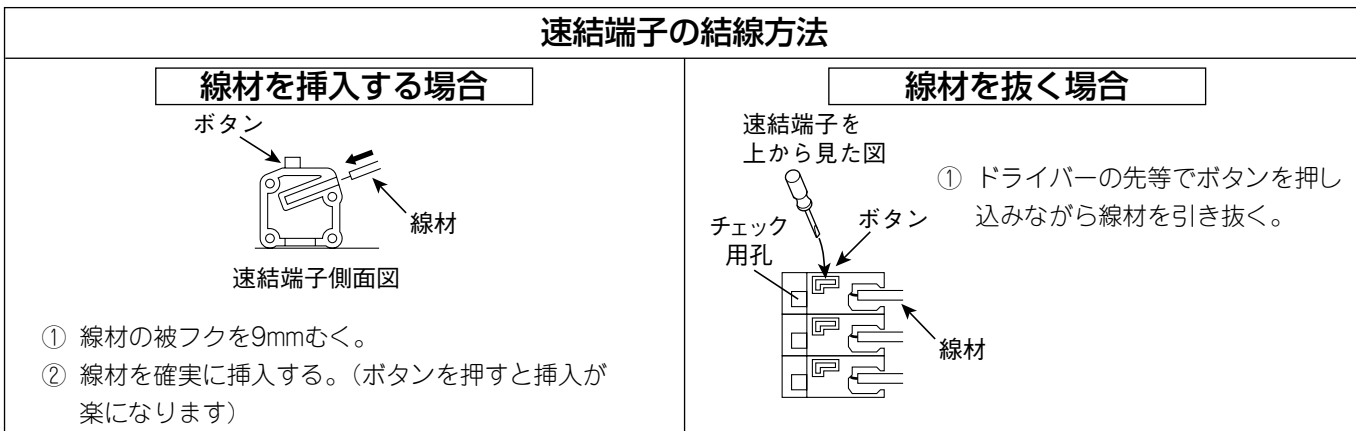
4.コードブッシュを本体ケースにはめ込み、P1、P2端子にACコードの接続部を挿入する



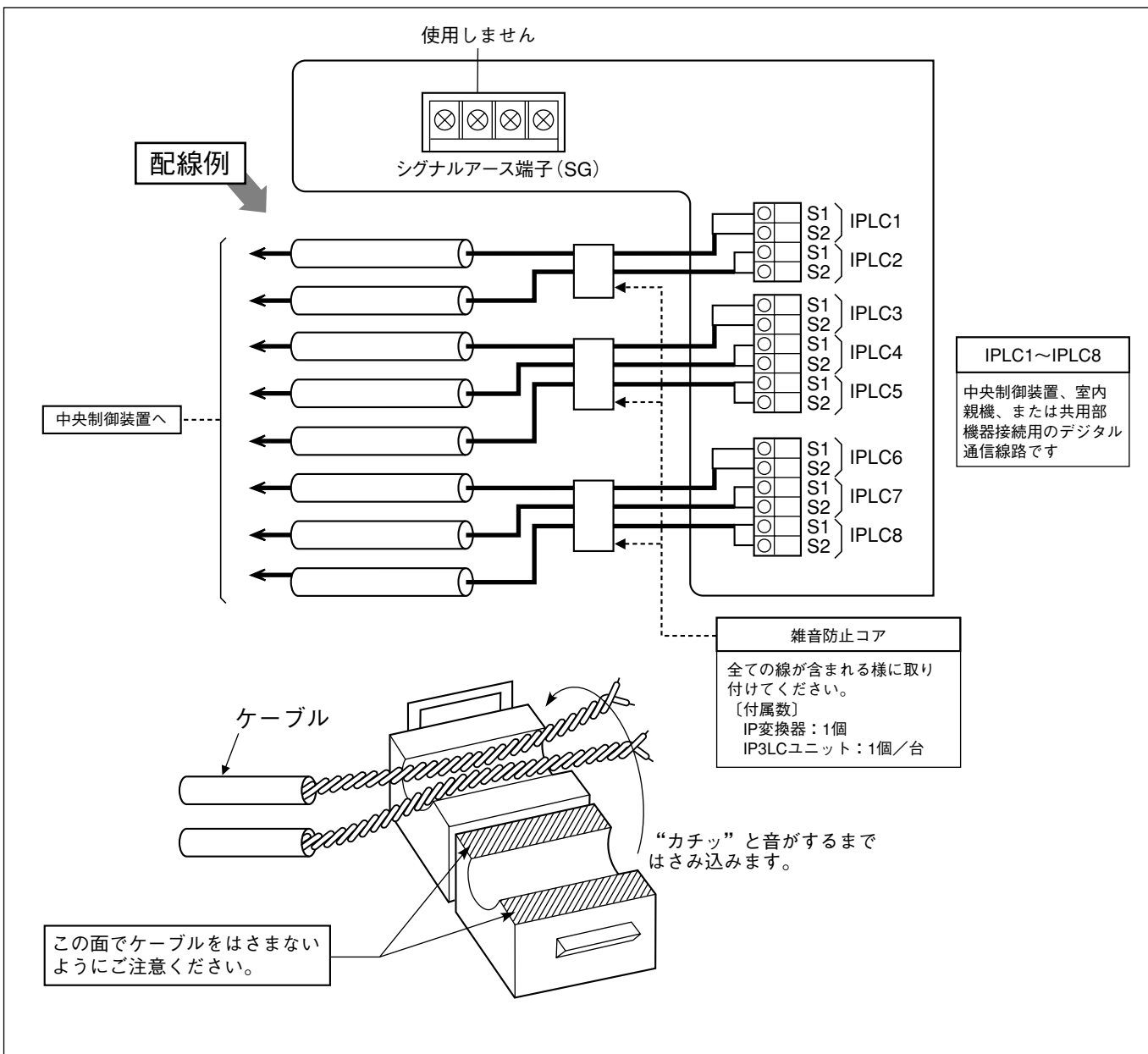
3. ペア線の接続および雑音防止コアの取付方法

●接続端子は速結端子になっているため下記の配線方法で行ってください。

・速結端子は、単線Φ0.65～Φ0.9用です。

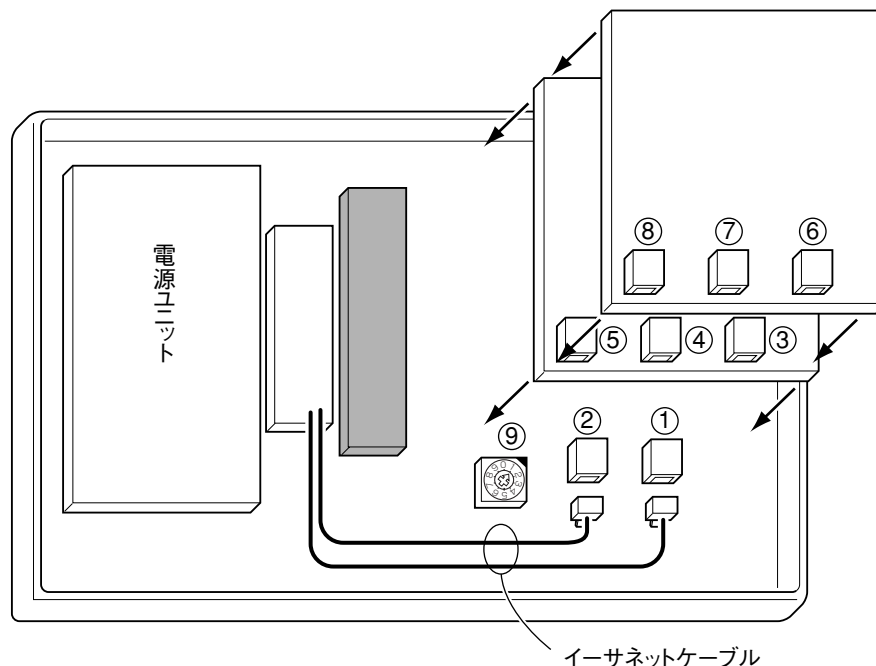


・速結端子に挿入できる線材は1本です。複数の線材を結線する場合は、圧着端子等を用いてください。
前頁の (アミカケ) 部の端子配置です。



4. イーサネット（LAN）との接続と機器番号の設定

- 各IPLCのイーサネットコネクタ（RJ-45）をイーサネットケーブルでハブ（10Base-T）と接続します。



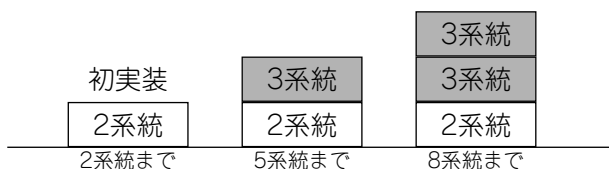
①	IPLC1用イーサネットコネクタ	イーサネット用ハブ（10Base-T）とイーサネットケーブルで接続
②	IPLC2用イーサネットコネクタ	
③	IPLC3用イーサネットコネクタ	
④	IPLC4用イーサネットコネクタ	
⑤	IPLC5用イーサネットコネクタ	
⑥	IPLC6用イーサネットコネクタ	
⑦	IPLC7用イーサネットコネクタ	
⑧	IPLC8用イーサネットコネクタ	
⑨	機器番号設定スイッチ	機器番号を設定

- 同じネットワーク（LAN）に複数のIP変換器（最大8台まで）を接続する場合は、各IP変換器に重複しないよう機器番号（1～8）を設定します。
機器番号が重なると、正常に動作しません。
- 機器番号の設定はIP変換器の電源スイッチを切ってから行ってください。

2. IP3LCユニット VG-C974D

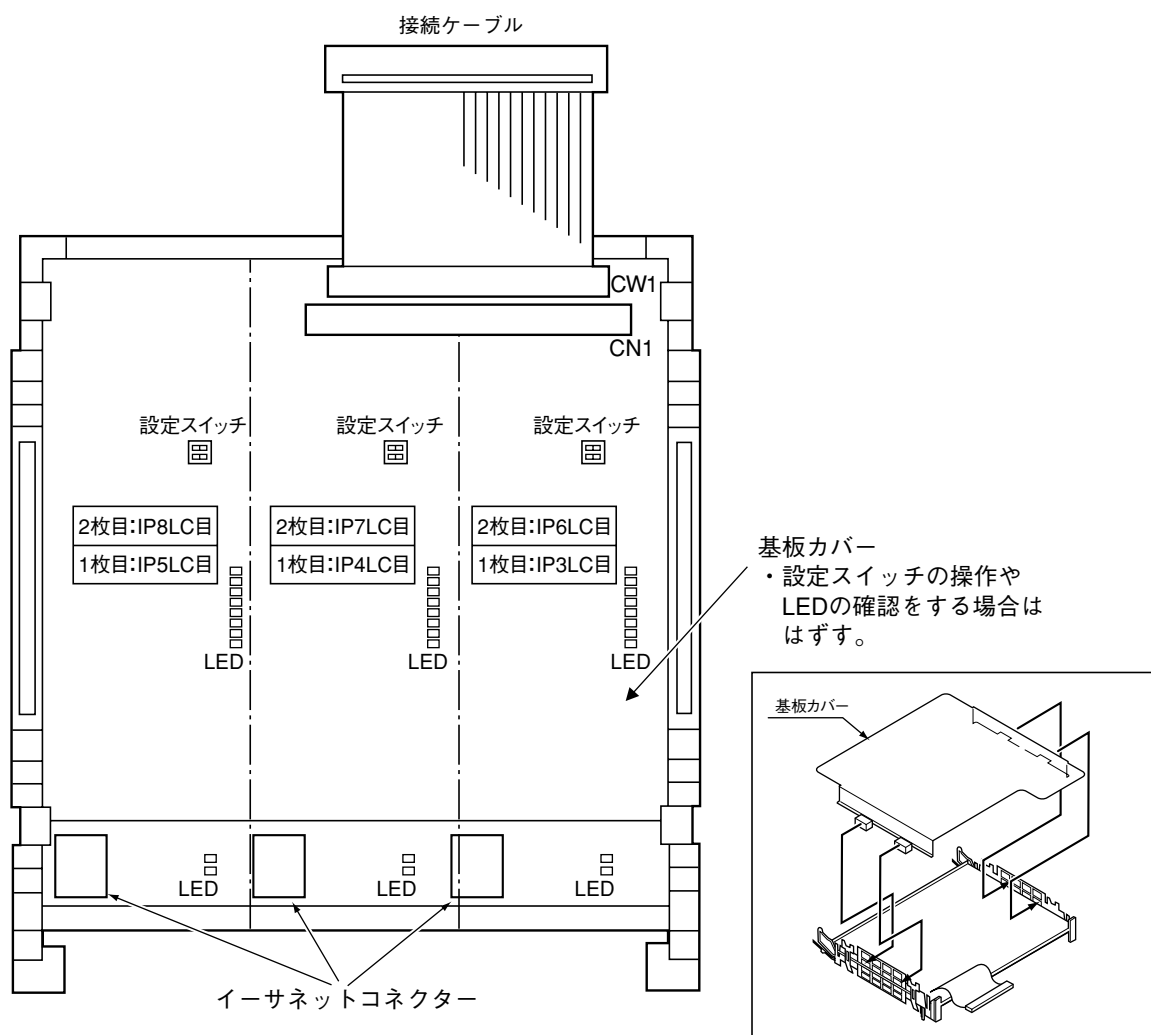
IP3LCユニット（3系統拡張）は初実装（2系統用）システムに対して、系統数を拡張するためのユニットです。IP3LCユニットの取付方法に従ってIP変換器との接続を行ってください。（IP3LCユニットは最大2台接続（6系統拡張）できます）

お願い ・作業時には、アースバンドをつける等、静電防止には十分な配慮をしてください。



	オプション
2系統まで（初実装）	不要
5系統まで	VG-C974D（IP3LCユニット）1台
8系統まで	VG-C974D（IP3LCユニット）2台

1. IP3LCユニットの外観



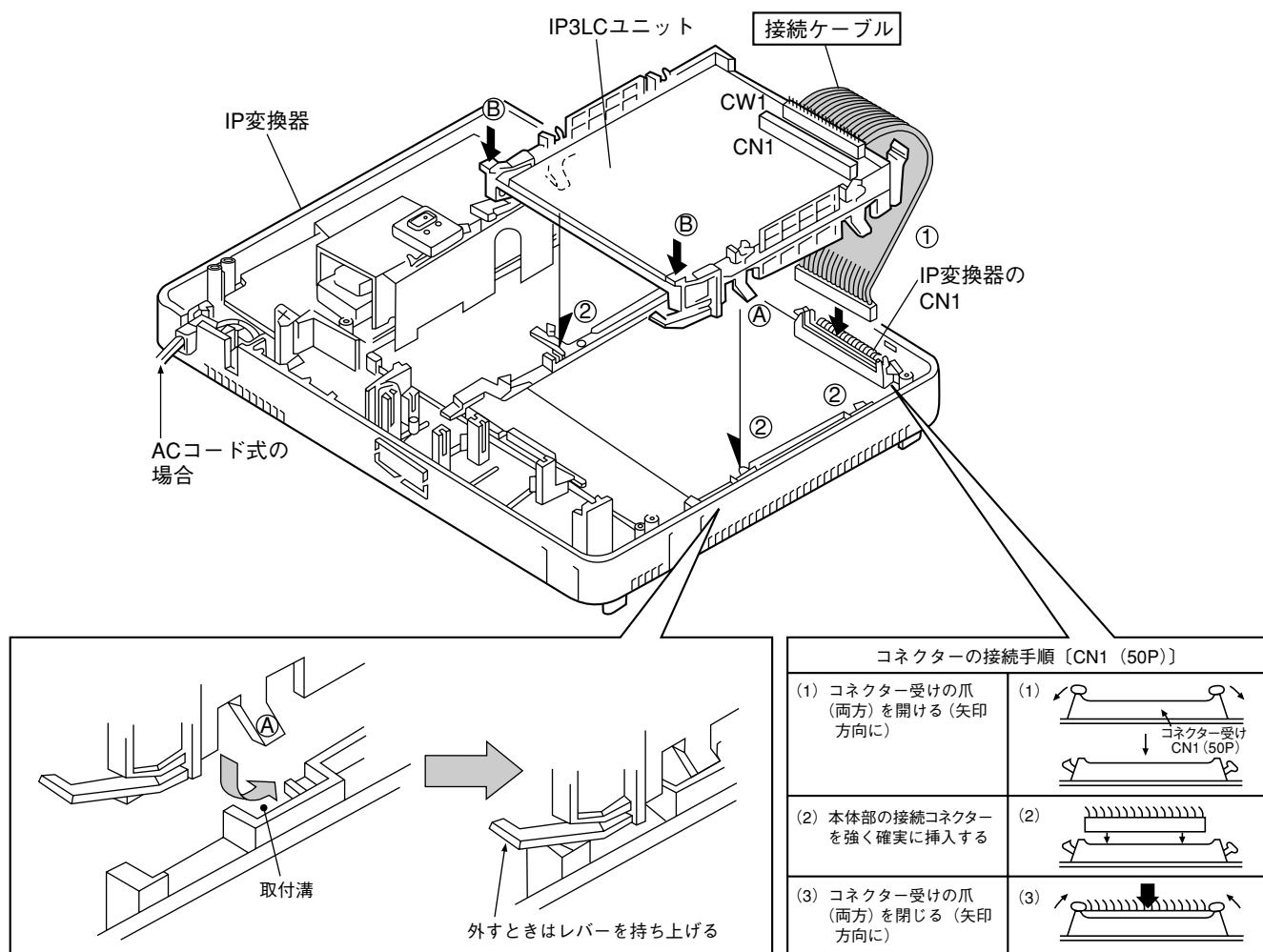
2. IP3LCユニットの取付方法

取付け、または取外しの際は必ず電源を切った状態で行ってください。

※取付ける前に、IP3LCユニットによく似た保護ケースを中央制御装置からとりはずしてください。

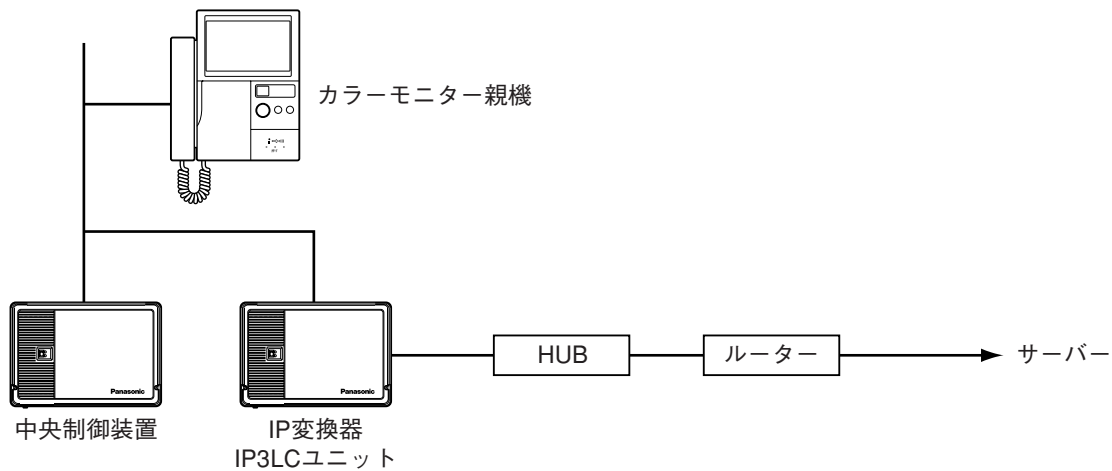
手順

- ①IP3LCユニットからの **接続ケーブル** をIP変換器のCN1にしっかりと強く差し込みます。
- ②IP変換器の取付溝にIP3LCユニットのA部を合わせ、ロックレバーにより固定されるまで（カチッと音がする）Bを押す。
- ③さらに拡張するときはIP3LCユニットの上にIP3LCユニットを同様に重ねてください。この時 **接続ケーブル** は下のIP3LCユニットのCN1にしっかりと強く差し込んでください。



5 設定方法

1、設定概要



■IP変換器、IP3LCユニットの動作には、次の項目の設定が必要です。

設定項目	設定を登録する機器
IP変換器の機器番号	IP変換器
IPLC1～8のIPアドレス	IP変換器、IP3LCユニット
IPLC1～8の接続系統番号	中央制御装置 ・プログラム登録（変更）マニュアル（中央制御装置に同梱） を参照願います。
FTPサーバのIPアドレス	
デフォルトゲートウェイのIPアドレス	
サブネットマスク	
ログインアカウント	
ログインパスワード	

注) 上記設定の他、サーバー、ルーター等ネットワーク機器の工事・設定が必要です。

2、機器番号の設定

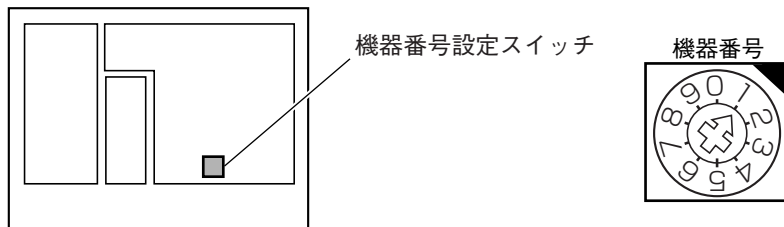
① IP変換器の電源スイッチを切ります。

② IP変換器の機器番号を機器番号設定スイッチで設定します。

同じネットワーク（LAN）に複数のIP変換器を接続する場合（P9の下図参照）は各IP変換器に重複しないよう機器番号（1～8）を設定します。

※機器番号を、0、9に設定しないでください。誤動作の原因になります。

③ IP変換器の電源スイッチを入れると機器番号が設定されます。



工場出荷時 1

3、IPアドレスの設定

① IPアドレスの初期値

各IPLC部のIPアドレスの初期値は、次のようになります。

192.168.0.**A/B**

機器番号 — A — IPLC番号 — B —

例) 機器番号を“1”に設定している場合。(工場出荷時)

IPLC番号	IPアドレス
IPLC1	192.168.0.11
2	192.168.0.12
3	192.168.0.13
4	192.168.0.14
5	192.168.0.15
6	192.168.0.16
7	192.168.0.17
8	192.168.0.18

②IPアドレスの変更（初期値のまま使用する場合は変更する必要はありません）

IPアドレスの変更は、パソコンから行ないます。

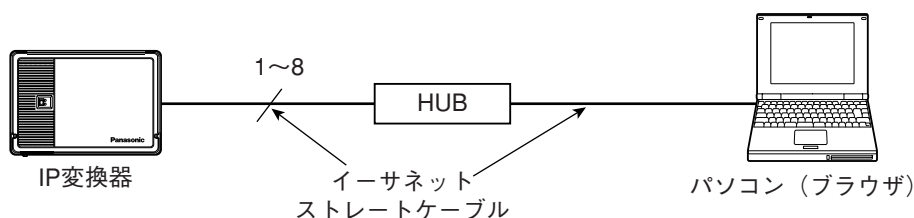
※以下に示す条件を満たす準備してください。

- LAN（10Base-T）インターフェースを装備していること。
- Windows95/Windows98/WindowsNT4.0以降のいずれかのOSが動作していること。
- WWWブラウザが動作していること。
推奨ブラウザ> Netscape Navigator ver.4.04以上
Internet Explorer ver. 4.0 以上
- ディスプレイ解像度 800×600 ドット以上

■接続方法

IPアドレスを変更したいIPLC部のイーサネットコネクタとパソコンのLANインターフェースをハブを介して接続します。

ケーブルはストレート仕様です。



■設定のしかた

工場出荷状態におけるアドレス類設定値は、下記の通りです。

IPアドレス	192.168.0.11~192.168.0.18	前ページ参照
サブネットマスク	255.255.255.0	中央制御装置で設定
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1	(左記は中央制御装置の初期値)

工場出荷状態時の本機へアクセスするには、パソコンのIPアドレスも192.168.0.××（××は11~88を除く2~254のうちのいずれか）に設定する必要があります。

(1) パソコンのTCP/IPの設定を、本機の工場出荷状態設定値に合わせて変更する。

Windows95/98の場合は、「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「ネットワークの設定」で、TCP/IPを選択し、プロパティボタンを押して表示を起動し、IPアドレスを下記のように変更します。

例) IPアドレス……………192.168.0.9
サブネットマスク……………255.255.255.0（工場出荷状態）

(2) IPアドレスを有効にするため、パソコンを再起動する。

WWWブラウザを立ち上げ、ブラウザの設定を「プロキシを使用しない」に設定します。

(3) WWWブラウザのアドレス（URL）入力欄に、設定変更したいIPLC部のIPアドレスを指定します。

例) 機器番号“1”のIPLC1にアクセスする場合は「http://192.168.0.11/」と入力します。

(4) 下図のようなネットワーク設定画面が表示されます。

agio IP変換器 ネットワーク 設定

IP アドレス 192.168.0.11

設定

システム情報

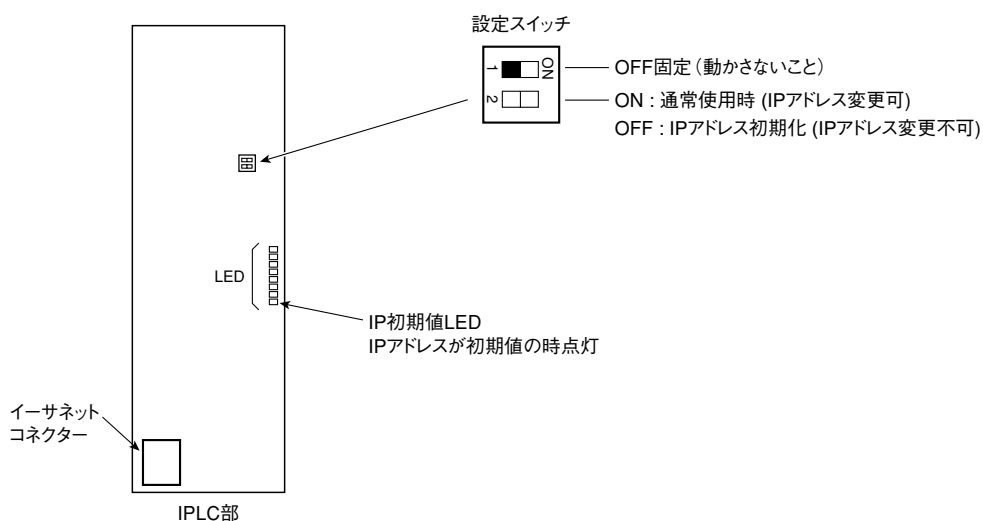
MACアドレス 00-80-45-0D-B0-00
ネットマスク 255.255.255.000
デフォルト ゲートウェイ 192.168.000.001
IP変換器 Version Ver ih000e08

(5) IPアドレス欄にIPアドレスを入力し設定ボタンをクリックすると、IPアドレスが変更されます。
※変更したIPアドレスは、忘れないように記録してください。

■変更したIPアドレスを忘れた場合

以下の手順で初期値に戻すことができます。

- (1) IP変換器の電源スイッチを切ります。
- (2) 初期値に戻したい、IPLC部の設定スイッチの2ビット目を「OFF」にします。
- (3) IP変換器の電源スイッチを入れると、IPアドレスが初期値に戻り、「IP初期値」LEDが点灯します。
・引き続き、IPアドレスを変更する場合
- (1) IP変換器の電源スイッチを切ります。
- (2) 設定スイッチの2ビット目を「ON」にします。
- (3) IP変換器の電源スイッチを入れ、前ページの手順でIPアドレスを変更します。



6 取付工事後の点検方法

1. 絶縁抵抗試験（500Vメガテスト）/耐電圧試験（AC1kV）について

絶縁抵抗試験および耐電圧試験に対する準備

1. IP変換器の電源スイッチをOFFにする。（ブレーカを切る）
2. 電源ユニットに取付いているCN4コネクタを抜き取る。
3. 電源ユニットのP1、P2端子（AC100V）より端子付コードを抜き取る。

・絶縁抵抗試験（500Vメガテスト）方法

下記の端子間に絶縁抵抗計を接続して、DC500Vを印加する。

- ①電源ユニットのAC入力端子（P1、P2端子）と共用部⊕および⊖端子間で20MΩ以上。
- ②電源ユニットのAC入力端子（P1、P2端子）と共用部FG端子間で20MΩ以上。

・耐電圧試験（AC1kV）方法

下記の端子間に絶縁耐力試験機を接続して、AC1.2kVを1秒間印加する。

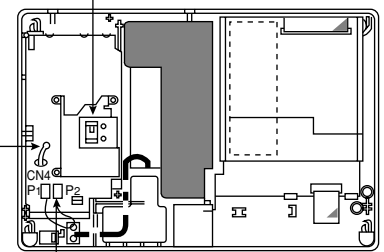
- ①電源ユニットのAC入力端子（P1、P2端子）と共用部⊕および⊖端子。
- ②電源ユニットのAC入力端子（P1、P2端子）と共用部FG端子。

必ずお守りください

電力会社で絶縁抵抗試験（500Vメガテスト）及び耐電圧試験（AC1kV）を行う時は、IP変換器の電源ユニットに接続されている落雷対策用のZNRのもれ電流により不良と見誤ることがあるので、電源ユニットに取付いているCN4コネクタをSG（シグナルグランド）から浮かすために抜きます。また、AC電源コネクタ-P1、P2も抜いて試験をしてください。

（電源スイッチはOFF状態

IP変換器

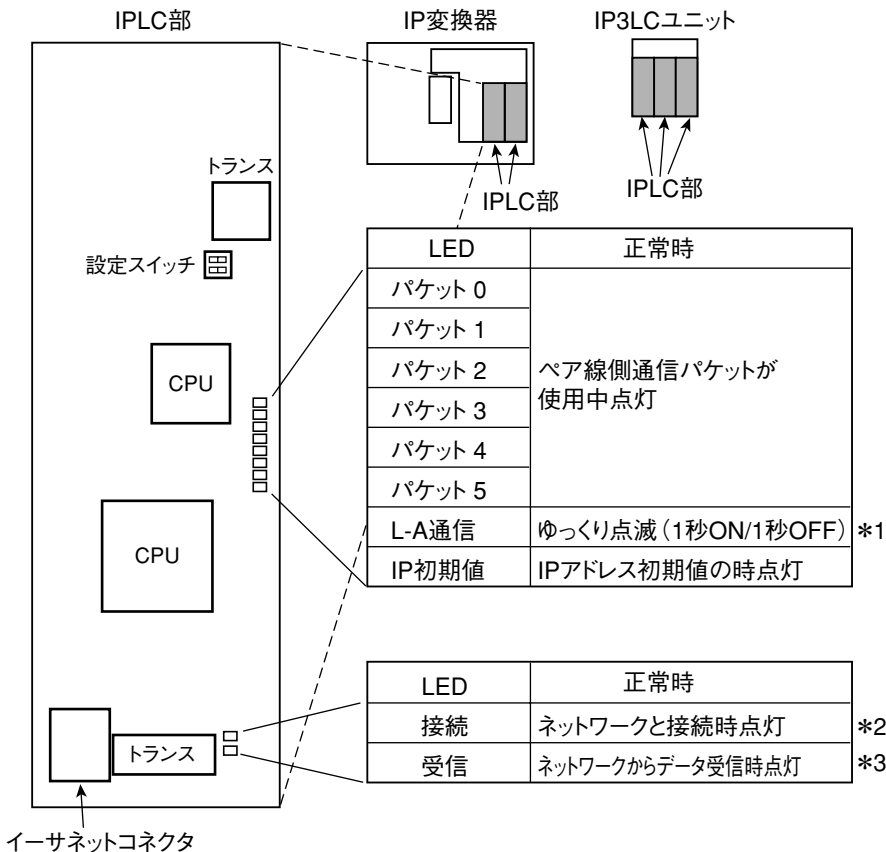


CN4コネクタ
電源ユニットの
CN4コネクタ
を抜き取る

P1, P2コネクタ

AC電源コネクタP1, P2を抜き取る
試験後は、必ずもとに戻してください。

2. 動作確認用LEDについて



*1：CPU異常時は点灯または消灯、通信異常時は間欠点滅（0.15秒ON/0.15秒OFF/0.15秒ON/1.95秒OFF）。ゆっくり点滅していない時は、中央制御装置との配線また、プログラム設定（1000-1～1000-8）を確認してください。

*2：点灯していない時は、ハブ、10Base-Tケーブルの接続を確認してください。

*3：データを受信しない場合は、機器番号、IPアドレス、また、中央制御装置のプログラム設定（1000～1005）を確認してください。

3、動作確認方法について

(準備)

- IP変換器、IP3LCユニットの接続されているLANにパソコンを接続します。(パソコンの仕様は21ページ参照)
- パソコンのIPアドレス、サブネットマスクの設定を確認します。
- ブラウザのプロキシ設定を確認します。

①ネットワーク設定画面による確認方法

- (1) WWWブラウザのアドレス (URL) 入力欄に動作確認したいIPLC部のIPアドレスを指定します。
例) 機器番号の“1”のIPLC1にアクセスする場合は「http://192.168.0.11/」と入力します。
※IPアドレスを変更している場合は、変更後のIPアドレスを入力します。
- (2) ネットワーク設定画面が表示されればLAN側通信は正常に動作しています。

システム情報	
MACアドレス	00-80-45-0D-B0-00
ネットマスク	255.255.255.000
デフォルト ゲートウェイ	192.168.000.001
IP変換器 Version	Ver ih000e08

- (3) システム情報欄に表示されているネットマスク、デフォルトゲートウェイの値が中央制御装置で設定した値と等しければ、IP変換器 (IP3LCユニット) は正常に動作しています。
- (4) 各IPLC部の動作を同様に確認します。

②PINGコマンドによるLANとの接続確認方法

- (1) IPLC部に設定したIPアドレスに対し、PINGコマンド実行します。
例) 機器番号“1”のIPLC2の動作を確認する場合。C: ¥ >PING 192.168.0.12
Replyが返ってきた場合、正常に動作しています。
- (2) 各IPLC部の動作を同様に確認します。

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 セキュリティ&セーフティ事業部

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600番地 ☎(045) 932-1231 (大代表)

C8QA5870AN